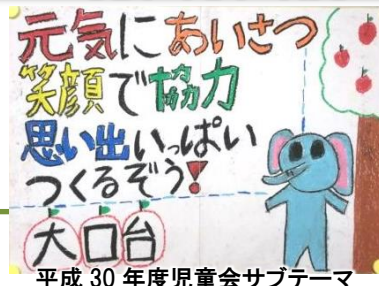




温かい やさしい風に背中を押されて

校長 田川 齊史

アジサイの花の咲きほころぶ季節となりました。子どもたちは、明るく元気に学校生活を送っております。今月下旬からは、水泳の授業も始まります。安全に留意して楽しい充実した時間となるようにしていきたいと思っております。また、4年生「愛川宿泊体験学習」、5年生「大房岬宿泊体験学習」があります。新しいことへの挑戦（トライ!）にわくわくしていることでしょう。今月もご支援とご協力をお願いします。



安全、安心な登下校を 家庭、地域に見守られて...

毎朝、たくさんの保護者、ご家庭のみなさん、そして地域の方々が、子どもたちの登校の「見守り隊」としてお力をお貸しいただいています。我が子を見送りながら、近所の子どもに声をかけながら、おつとめに向かうときにすれ違いながら、大人の目で子どもたちが見守られていることに、この「まち」のあたたかさを感じます。ありがとうございます。これからも、できるときにできる場所で支えてください。子どもたちの安全は大人の目で。学校では、「気持ちのよいあいさつをしよう」と引き続き指導しています。ご家庭でも一声…。お願いします。



聞くこと、話すこと、思い描くこと

子「かあさん。腹へったあ〜。」

母「冷蔵庫の上から二段目に、昨日の〇〇が残っているから、ラップのままチンして食べなさい。フォークはいつもの引き出しから出してね。食べ終わったら、ちゃんと洗っておいてね。」

息子がまだ小学生だった頃でしょうか、我が家の何気ない会話です。きっと多くのご家庭でも取り交わされている一場面だと思います。母親はきっと子どもがどう動くのか、思い描きながら話をしているのでしょう。さすがに順序よく、適切に指示をしているのですが、さて、それを聞いた子どもはどうでしょう。ただ、おなかがすいたということアピールしただけなのに、その答えは全部の大人が用意してくれているのです。

『目黒の秋刀魚』『時蕎麦』『茶の湯』。古典落語のCDを見つけ、何気なく再生すると...

噺家の軽妙な口調で、みるみるうちにその世界に引きずり込まれました。何となく思い浮かぶ『殿様の表情』、『必死にお金を数える蕎麦の屋台の主人』、『お茶を泡立たせるためにおもいつきり動いている指先』。噺家の「話術」に見事にはまってしまいました。聞き手に情景を空想させる、そんな噺家の技術に驚いたことと、話を聞いて想像を膨らませることがこんなに楽しいことなのだ、改めて感じました。



昨今、子どもたちの会話が非常に短く感じられます。単に語彙が不足しているだけとはいえません。情景をそのまま目から得ることが多くなってしまって、『会話』を重ねることが少なくなってしまった代償なのかもしれません。子ども同士のトラブルの多くが「会話」「言葉」がもと。相手がどう思うのか、これを言ったらどう感じるのか、何でそんなことを言われるのかがわからない…。大人からの指導も「指導された(叱られた)」ことだけに腹を立て、なにを指導されたのか、なぜ指導されたのか、その内容まではわかろうとしない子どもが少なくありません。わからないこと、必要なことはほとんどネットやテレビなどで映像付きですぐに手に入ります。便利におぼれた反面、周りの人の話を聞いて、空想の世界を広げていく経験が少なくなっていました。

「昔々あるところに、おじいさんと、おばあさんが住んでいました。」

図書ボランティアさんの読み聞かせは、きっと子どもたちに「思い描くこと」の貴重な経験をさせていただいているのだと思います。ありがとうございます。私たち大人も、わかりやすいことばで説明をする、メリハリをつけて子どもたちが惹きつけられるような話し方で話す等々、教室で取り組んでいかなければいけないことがたくさんあるとつくづく考えさせられました。今後も努力をしていきます。